



富士宮防災ボランティアの会

明日来てもおかしくない大規模災害
地域の防災力を高めるために

【あなたにスポットライト！第6回】
議会だより編集委員会が市民の本
音に迫るインタビュー企画。

どこか他人事に捉えがちな「防災・
減災」。今回は、そんな市民の意識
に寄り添い、富士宮市に特化した草
の根の啓発活動を精力的に展開され
ている「富士宮防災ボランティアの
会」の皆様にお話を伺いました。

設立のきっかけについて教えていた
だけですか

令和3年4月に設立しました。こ
れからの時代、やはり「防災・減災」
に特化した、より専門的なボランティ
ア組織が必要だという強い危機感が
立ち上がりました。

皆さんが活動する上で、大切にしてい
る想いは何ですか

私たちの根底にあるのは、災害が
起きたとき、1人でも多くの命が助
かり、最終的にはみんなが笑顔にな
れるようにという想いです。

所属されているメンバーについて教
えてください

現在は女性13名、男性4名の計17
名で活動しています。皆さん自発的
に勉強され、日本防災機構の「防災士
」や「静岡県防災士」、「赤十字救急法



富士宮防災ボランティアの会 会長
佐野 明子 氏



▲活動の様子

救急員」などの資格を取得していま
す。元県職員の保健師や元教員、さ
らには元気象庁職員など、多彩なキャ
リアを持つメンバーが集結している
点が私たちの強みです。
年間約40件もの講座を開催されてい
ますね。伝えるための工夫は何で
しょうか

富士宮市は幸いにも近年大きな災
害が少なかったため、どこか自分事
として捉えにくい空気があります。
だからこそ、ただ「災害＝怖い話」
をするのではなく、いかに関心を持っ
てもらうかが重要だと考えています。
例えば、こどもたちには映像や実験、
クイズを交え、高校生には応急手当、
高齢者の方々には喉を詰まらせない
ための嚥下体操など、健康情報の要
素も入れながら、まずは楽しんで帰っ
てもらおう。そして「お家でこれ1つ



副会長
山本 郁子 氏

副会長
中野久美子 氏

会計監査
藤村 昌彦 氏

会員
稲葉やす子 氏

だけ実践してみよう」と、日常生活
に取り入れられる具体的なアクショ
ンプランをお伝えしています。
読者へメッセージをお願いします

南海トラフ地震も、富士山噴火も、
いつかは100%やってきます。そ
れは脅しではなく、私たちが向き合
わなければならない現実です。

しかし、過度に恐れる必要はあり
ません。大切なのは「どこで災害（地
震や富士山噴火）が起きたらどうす
るか」を日頃からイメージし、自ら
考えて行動する力をつけることです。

まずはゴミ袋を多めにストックす
る、歩きやすい靴を準備する、そん
な小さな一歩から構いません。皆
様の大切な命：ぜひ今日から自分事
として災害が起きたら、どう対応す
るか、考えてください。



富士宮防災ボランティアの会の皆さんと
議会だより編集委員会